

2004 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 5 年 3 月 2 5 日作成)

委員会名	建築人間工学小委員会	主 査 名：吉村 英祐
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2004 年 4 月 ～ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築設計の基本となる人間の各部寸法、動作領域、心理・生理、行動能力、安全・安心等について広く英知を集め、安全・安心・快適な生活空間のあり方を考究する。	
委員構成 (委員名(所属))	第一線および新進気鋭の若手研究者に加え、企業からも住宅・家具・インテリアにも造詣の深い方を委員に迎え、研究と実務のつながりを強く意識した委員構成としている。	
設置 WG (WG 名：目的)	建築人間工学基礎資料集整備 WG (建築人間工学にかかわる新規データの収集と整理・更新及びその体系化の検討を行うとともに、建築人間工学基礎資料集の執筆・出版と講習会の企画を行う)	
2004 年度予算	317,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会 (2004.5.7、6.18、8.30,11.5,2005.2.18)、基礎資料整備 WG (2004.6.18) を開催した。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>11 月 5 日に第 43 回研究会「日常生活事故を科学する 子どもの遊びと安全」を実施し、日常安全に関する有益な情報を得た。</p> <p>建築人間工学基礎資料 (文献・論文) のデータベース化</p> <p>昨年度の継続で、約 300 の建築人間工学関連の文献を収集したリストのデータベース化を進めた。また、委員による話題提供 (20 分トーク) を実施した。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>日常事故を建築人間工学の視点から安全・安心な生活空間のありかたを考究することを目標として、折しも 2004 年 3 月 26 日、六本木ヒルズの自動回転ドア事故が発生し、その後も子どものエスカレータ事故が発生するなど、日常安全の確保のためのハード・ソフトの見直しが急務となっており、上記の目標はまことに時宜を得たものとなっている。</p>
その他評価すべき事項	